



発行所

公益財団法人
釧新教育芸術振興基金
年1回発行
〒085-0018 釧路市黒金町7の3
(釧新ビル内)
電話 0154(22)1111



釧路、根室の魅力を語る辰巳氏

釧新文化講演会「釧路・根室の情報発信」を

辰巳琢郎氏が提言

公益財団法人釧新教育芸術振興基金（理事長・星匠釧路新聞社代表取締役社長）は平成31・令和元年度に恒例の顕彰・贈呈事業はじめ、釧新文化講演会、美術展示を開催しました。今期の文化講演会の講師は俳優の辰巳琢郎氏で、大阪生まれでもある辰巳氏は、関西と釧路・根室地方の人々が互いに良いところを自慢し互いに知り合うことが重要であると会場を埋めた聴衆に呼びかけました。

辰巳氏の釧新文化講演会は7月20日、釧路センチュリーキャッスルホテルで開かれました。大阪生まれの辰巳氏の講演は「関西と釧路・根室のいい関係」をテーマにトークショー形式で行われました。この中で辰巳氏は「それぞれの地域の食文化を発信していくことは、その周辺の観光資源を開拓する

公益財団法人 釧新教育芸術振興基金 のあらまし

当基金は、「釧新奨学基金」（昭和51年設立）と「釧新郷土芸術振興基金」（同47年設立）の

両基金を統合して昭和57年11月1日に設立した財団法人釧新教育芸術振興基金が前身。平成22年12月1日、公益財団法人に移行しました。基本財産1億円と

運用財産、篤志寄付により毎年「釧新奨学賞」「釧新教育活動賞」「釧新郷土芸術賞」「釧新教育図書」贈呈事業のほか、講演会などの文化事業を開催しています。

ことにつながり、それが日本の農業、第1次産業を応援することにつながる」と語り、自身を取り組んでいる活動を紹介した。さらに「そのまちな山なり、海を見ながらその土地の空気を吸って、飲み、食べることは素晴らしい。地元の人たちは自分たちのまちな素晴らしさに自信をもってほしい」と励ましました。また、釧路と大阪が格安航空会社ピーチの就航で直

と呼ばれる機械仕掛けのからくり人形を紹介する「英国自動人形展」が4月27日から6月23日まで釧路市立美術館で開かれました。今回の展示は芸術作品としてオートマタを復活させた作家の中でも、世界的に高い評価を受けているイギリスのポール・スプリーナー氏の作品を中心に紹介しました。会場には芸術的な動きをみせる数々の自動人形が並び、部品のカムや

菌車などの各種機構模型も展示し、どのように動くのか、からくりを分かりやすく説明、来場者の注目を集めていました。

久本春雄素描展

釧路出身日本画家

釧路美術の礎を築いた釧路出身の日本画家、久本春雄氏（1896～1968年）の制作過程を示されました。

英国自動人形展 人形と機械模型が人気 西洋で「オートマタ」



久本春雄氏の素描コレクションが並んだ展覧会

注目を集めた
英国自動人形展

中河氏、土井上氏が受賞、長倉氏が特別賞 晴れやかに精進誓う

48回目となる今年度の「釧新郷土芸術賞」は、釧路市内住の書道・中河満人さん、別海町在住の水彩・土井上初枝さん、特別賞にフォトジャーナリストの長倉洋海さんを選考し、11月23日にANAクラウンプラザホテル釧路で贈呈式を行いました。



受賞者を囲み授賞式出席者による記念撮影

釧新郷土芸術賞

贈呈式には来賓と過年度受賞の財団関係者ら約60人が出席。星理事長が「受賞を契機に今後一層、釧路、根室地域の文化向上にご尽力いただきたい」とあいさつ。同賞第1回受賞者で選考委員長の羽生輝さんが選考経過を報告し、受賞者に賞状とメダルが贈呈されました。来賓の蝦名大也釧

路市長らが祝辞で受賞者をたたえました。

受賞者の謝辞では、土井上さんが「身に余る賞をいただき、今後の活動に責任を重く感じている。残った子が、外に出て帰ってきてくれれば」と抱負を述べ、中河さん

は「自分の得たものを後進に伝え、釧路の素晴らしさを文字に託して全

道、全国に発信していきたい」と語りました。長倉さんは「経験を釧路の子供たちに伝えていきたい。その中で一つでも心に残った子が、外に出て帰ってきてくれれば」と話しました。

今年度で同賞受賞者は1972年から129人12団体となりました。

受賞者の横顔

◇書道 中河満人氏

1954年白糠町生まれ。白糠高校で後藤巨石さんに教わり、書道の芸術としての面白さに触れた。道教育大釧路校では故山口野竹さん、故辻井京雲さんに習い、教員となった後も辻井さんに師事。学生時代から漢字や近代詩文を中心に多くの作品展に出展。2008年に毎日書道展で会員賞、10年には北海道書道展で会友として準大賞を受賞。現在は全国、全道規模の作品展で審査員を務めるほか作品の出展も続いています。勤務先の釧路商業高校では書道部を指導し、後進の育成にも当たっています。

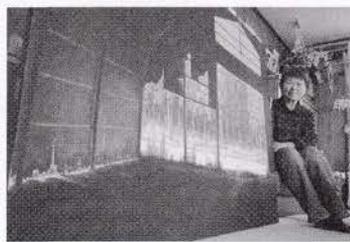
◇水彩 土井上初枝氏

牛飼いの傍ら2005年に始めた水彩で、09年にふるさと別海町の海辺を題材にした空想画「野付潮騒」で第10回日美絵画展大賞に輝き、14年道展新人賞を受賞。自宅の農業用ハウスから見る日常の風景を光と影のコントラストで表現した「これからの日」が評価され、17年には会友となりました。

◇特別賞 長倉洋海氏

釧路市生まれ。1980年に通信社を辞めてフリーの写真家に。世界の紛争地域を精力的に取材し、アフガニスタン抵抗運動の指導者マストドなど長期にわたって取材し続け、多くの写真集を出版しました。第12回土門拳賞をはじめ日本写真協会年度賞、講談社出版文

が短く一つの描写で表情が変わる水彩に魅せられ転向。牛を手放した10年以降は年間3〜4作品のペースで描いています。



第2の人生に向かう心情を重ね合わせた作品を手にとり土井上さん

化賞などを受賞。写真集は「地を駆ける」「長倉洋海の眼」「世界は広く、美しい」(全6冊)など多数。最近ではふるさと釧路で実家が営んでいた店舗跡を生かして「長倉商店塾」を立ち上げ、塾長として世界を知り、伝える夏期講座や高校生を対象にした特別講座を開いています。



字の形も利用して「樹」を表した作品と中河さん



言葉が通じなくとも、分かり合えることを伝えたいーと長倉さん

昭和小など3校に活動賞

奨学賞21人の活躍に期待

第44回創新教育活動賞と第62回創新奨学賞の贈呈式が11月3日に釧路センター・キャッスルホテルで行われました。優れた教育実践をたたる教育活動賞には釧路市立昭和小学校、別海町立野付中学校、中標津町立計根別学園の3校、学業優秀な高校生を顕彰する奨学賞には釧路、根室管内21校からそれぞれ1名を選考し、本賞と副賞を贈呈しました。



星理事長から奨学賞の盾を受け取る奨学生

今年度の教育活動賞は釧路、根室管内から小学校3校、中学校2校、小中一貫校1校の6校の推薦がありました。奨学賞は各高校からの推薦に基づいて選考しました。

贈呈式では受賞校の校長や受賞生、保護者、基金

提出者のほか、蝦名大也釧路市長、岡部義孝釧路市長、選考委員長で道教育大の玉井康之副学

奨学生には顕彰楯と副賞各5万円を贈呈しました。蝦名市長らの祝辞に続

創新奨学賞受賞者

- 西村 優汰 (釧路湖陵高校)
- 幡手 柚咲 (釧路江南高校)
- 石井 利空 (釧路工業高校)
- 清野 康介 (釧路商業高校)
- 山崎 凌空 (釧路北陽高校)
- 南 忍 (釧路明輝高校)
- 外山 桜 (釧路東高校)

- 船橋 千穂 (阿寒高校)
- 伊藤 綾香 (武修館高校)
- 河江 蒼生 (釧路高専)
- 野村加奈子 (厚岸翔洋高校)
- 諏訪 瑞歩 (霧多布高校)
- 一ノ戸菜穂 (標茶高校)
- 佐藤 穂香 (弟子屈高校)

- 桑山 唯翔 (白糖高校)
- 梶原 颯斗 (根室高校)
- 前原 悠李 (中標津高校)
- 佐藤 日菜 (中標津農業高校)
- 齋藤 さよ (別海高校)
- 加藤 優奈 (標津高校)
- 坂本 風影 (羅臼高校)

- ◆別海町立野付中学校 (飯田雄士校長、生徒40人)
- ◆飯田雄士校長、生徒40人
- ◆中標津町立計根別学園 (村上玄二郎校長、児童88人、生徒41人)

活動賞受賞校の実践

き、受賞校を代表して昭和の小の鈴木美恵校長、受賞生代表して釧路東高校の外山桜さんがそれぞれ謝辞を述べました。

今年度を含む活動賞受賞校は135校、奨学賞受賞者は745人となりました。



保護者らによる職業説明会「昭和小ジョブカフェ」

「昭和小ジョブカフェ」も仕事を児童に説明する

「昭和小ジョブカフェ」も仕事を児童に説明する

◆中標津町立計根別学園 (村上玄二郎校長、児童88人、生徒41人) 2015年度に中標津町内3校が統合し小中一貫校となりました。翌年度、道内で最初に義務教育学校に移行。9年を1サイクルに協働的な学習を取り入れていきます。1〜4年(小1〜4)は学びや生活の基礎を、5〜7年(小5〜中1)は学びを追求し人間関係を結ぶ力を8〜9年(中2〜3)は学びを伸ばし生き方を追求していく力を付ける期間にしています。教諭は小中の枠を超えて授業を担当し、5年生以上で完全教科担任制を導入。早いうちから専門的な授業で学力向上を図っています。

創新教育二賞



授業で新聞を活用した「NIEの学習風景」

特徴的な活動の一つ北根室ランチウェイを使った強歩遠足

